

第2回 統計技術・データソースの多様化等検討会 議事要旨

(開催要領)

日時：令和3年2月22日(月) 10:00~11:30

場所：オンライン開催

(議事次第)

- 1 開 会
- 2 議 事
 - (1) ビッグデータの利活用について
 - ① 総務省の取組
 - ② 自動的な情報収集について
 - (2) 行政記録情報の利活用について
 - (3) その他
- 3 閉 会

(配布資料)

- 資料1-1 公的統計へのビッグデータの更なる活用に向けて(概要、本文)
 - 資料1-2 総務省におけるビッグデータの活用に係る取組
 - 資料1-3 消費者物価指数(GPI)へのウェブスクレイピングの活用について
 - 資料1-4 農業統計における人工衛星データの活用について
 - 資料2 民間給与実態統計調査における行政記録情報の活用について
 - 資料3 統計表における機械判読可能なデータ作成に関する表記方法について(概要)
 - 参考資料1 統計表における機械判読可能なデータ作成に関する表記方法について
 - 参考資料2 統計技術・データソースの多様化等検討会の開催について
-

(概要)

【(1) ビッグデータの利活用について】

① 総務省の取組について

事務局から、資料1-1~1-2に沿って説明。

② 自動的な情報収集について

総務省統計局から資料1-3、農林水産省から資料1-4に沿って説明。
主な質疑応答の内容は以下のとおり。

(資料 1 - 3)

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、旅行者の大幅な減少に伴って旅行プランが減っているのではないかという質問があったが、プラン自体が掲載・販売されなかったものもあり、そうした場合は欠価格として扱うこともあった。
- コロナ禍の対応で苦労した点としては、Go to トラベル事業の対象となる旅行先の地域や出発地が限定されたりしたため、データクリーニングのフェーズでたびたびプログラミングの変更が発生した点が挙げられる。

(資料 1 - 4)

- 今年度から、人工知能 (AI) を用いて人工衛星画像等を解析し、形状変化のあった筆ポリゴンを含む区画を抽出してアップデートする取組を開始した。(従来、目視確認であったため、毎年更新できる筆ポリゴンは5分の1程度だったが、) 現在は、1年でできるだけ多くの区画を更新していく、ということに取り組んでいるところ。

【(2) 行政記録情報の利活用について】

国税庁から、資料 2 に沿って説明。主な質疑応答の内容は以下のとおり。

- 転記ツールの提供を開始した令和元年分調査においては、オンライン回答件数約7,200件のうち、転記ツールの利用件数は約2,300件。オンライン回答の32.0%で利用されている。なお、紙による提出も含めた回答件数約18,000件を分母にすると12.4%の利用率となる。
- 本年1月からスタートした令和2年分調査では、(速報値であるが、) 1月末までにオンライン回答件数のうち、約20%で転記ツールが利用されていた。前回調査以上に周知広報に力を入れたため、残り1か月で更に利用件数が増えることを期待している。

【(3) その他】

事務局から、資料 3 及び参考資料 1 に沿って説明。

(以 上)